

令和3年度 神戸市の大気質・水質・騒音・公害苦情処理等の状況

神戸市では、市民の健康を保護し、生活環境を保全するため、大気質、水質、騒音の状況等、各種環境測定を行い、国が定めた生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準（環境基準）の適合状況を確認しています。

このたび、令和3年度の各種環境測定結果及び公害苦情処理状況についてとりまとめました。

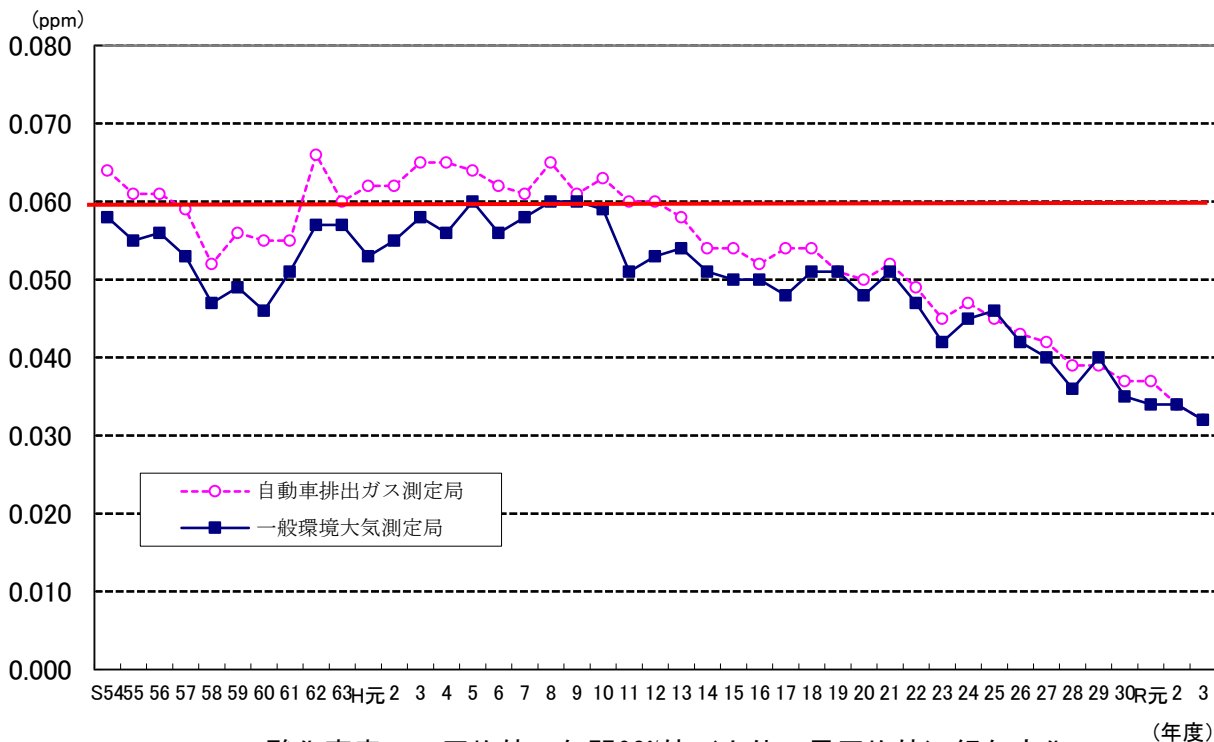
【概要】

- 市内の環境は、近年、総じて良好な環境を維持しており、令和3年度においても、大部分の環境測定結果が環境基準に適合していました。
- ・大気質については、20の測定局（一般環境大気測定局15局、自動車排出ガス測定局5局）で測定を行い、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質（PM2.5）については、測定した全局で環境基準を達成しました。
一方、光化学オキシダントについては、全国的にも環境基準の達成率が低く（令和3年度 1,186地点中2地点達成）、本市においても全局で環境基準を達成しませんでした。なお、光化学オキシダントが原因となる健康被害は発生しませんでした。
アスベストは環境基準が定められていませんが、測定した10地点で、大気汚染防止法で定める工場等の敷地境界における基準（1リットルあたり10本以下）を全て下回っていました。
- ・水質については、59地点（河川35地点、湖沼2地点、海域22地点）で測定を行い、概ね良好でしたが、河川の一部の調査地点で自然的要因により、環境基準値を超過した砒素（1地点）及びふっ素（1地点）が検出されました。
また、海域ではリン、窒素が環境基準を達成していました。湖沼ではCOD及び全燐については環境基準を達成しませんでした。
- ・自動車騒音については、調査した幹線道路沿道47地点のうち、35地点で昼間及び夜間ともに環境基準を達成しました。
- 公害苦情件数は270件あり、工事現場の作業音等の騒音が最も多く（42%）、次いで悪臭に係る苦情が多く寄せられました（25%）。

1. 主な大気質の状況

(1) 二酸化窒素

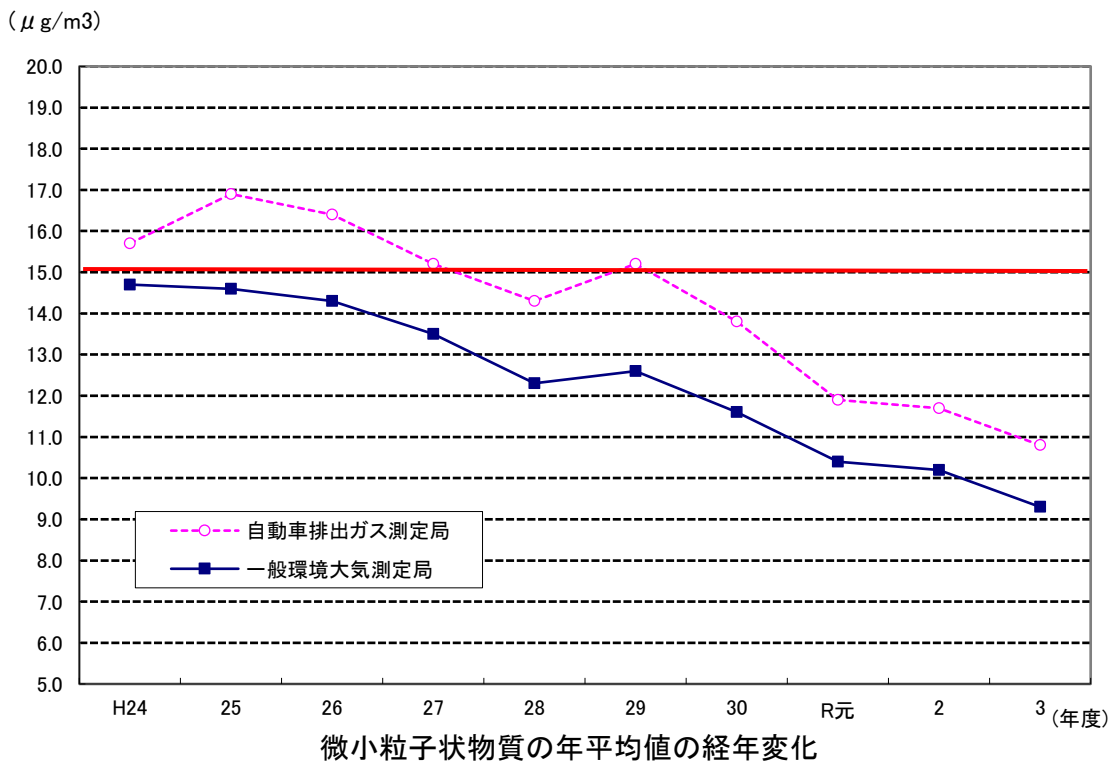
測定した全局（18局）で環境基準を達成しました。平成13年度以降、概ね減少傾向で推移しています。



二酸化窒素の日平均値の年間98%値（上位3局平均値）経年変化

(2) 微小粒子状物質(PM2.5)

測定した全局（17局）で環境基準を達成しました。平成25年度以降概ね減少傾向で推移しています。



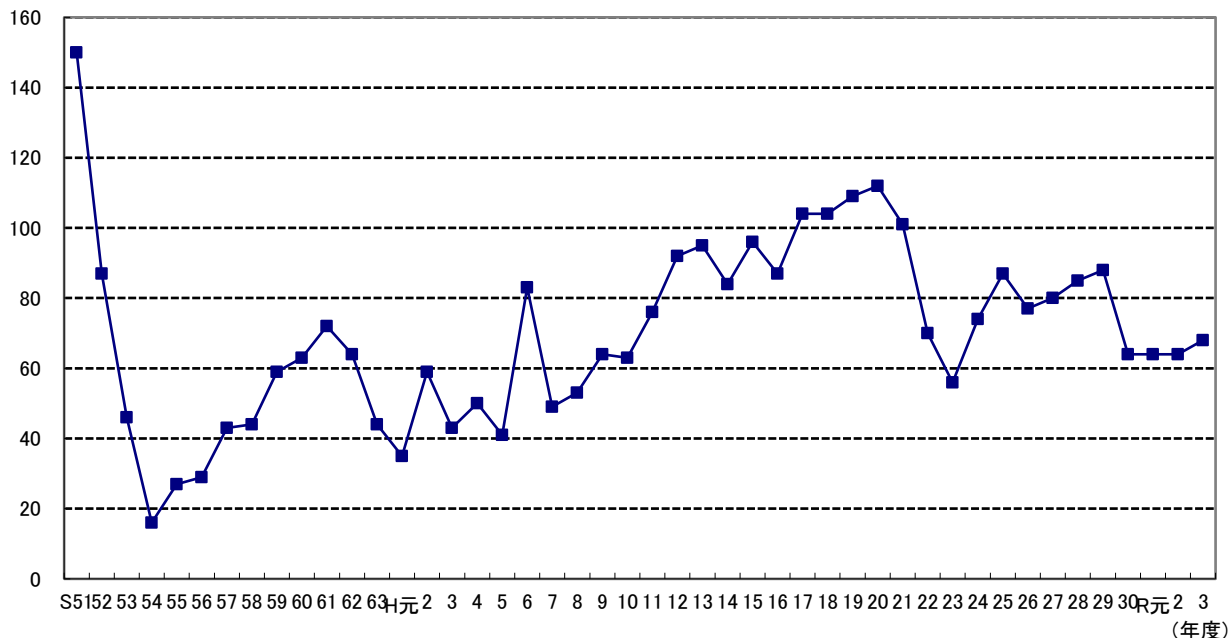
微小粒子状物質の年平均値の経年変化

(3) 光化学オキシダント

測定した全局（12局）で環境基準を達成しませんでした。全国的にもほぼ環境基準を達成していない状況です。（令和3年度測定地点1,186地点中、2地点達成）

また、光化学オキシダントが原因となる健康被害は、平成14年度以降発生していません。

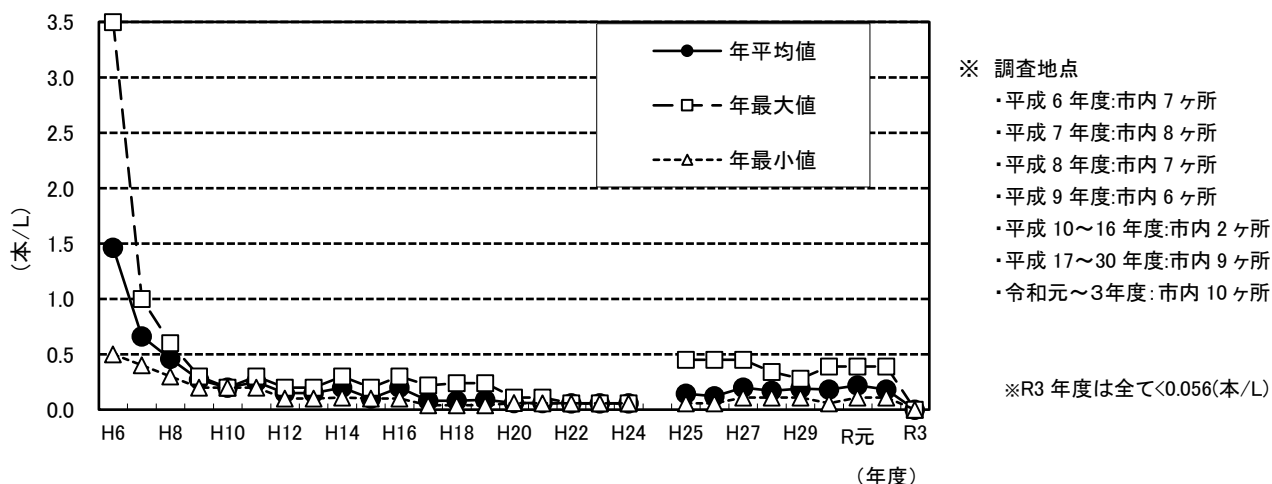
(日)



昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数の経年変化(光化学オキシダント)

(4) アスベスト

環境基準は定められていませんが、測定した全10地点で、大気汚染防止法で定める工場等の敷地境界における基準（1リットルあたり10本以下）を下回っていました。



アスベスト濃度の経年変化

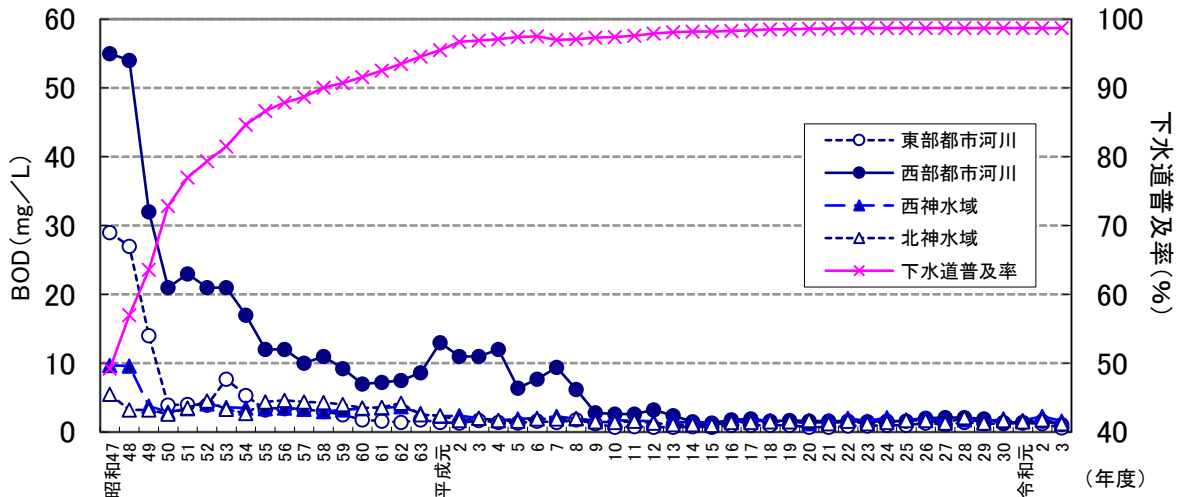
2. 主な水質の状況

(1) 河川の水質

河川の水質汚濁の代表的指標であるBOD※は良好な水質（3mg/L）で推移しています。しかしながら、自然的要因により、調査地点のうち1地点で砒素、1地点でふっ素が、環境基準値を超過して検出されました。

※BOD（生物学的酸素要求量）

水中の有機物が微生物の働きにより分解される際に消費される酸素量



河川の水域別のBOD75%水質値の経年変化(水域別の平均値)

- ※ 都市河川水域(東部・西部)については、毎年測定している地点(東部:住吉川、都賀川、生田川、西部:新湊川、妙法寺川、福田川)のデータにより作成している。
- ※ 75%水質値: BOD及びCODについて環境基準の適否を評価する場合に用いられる統計値。日平均値の全データを値の小さいものから順に並べ、 $0.75 \times n$ 番目(nは日間平均値のデータ数)のデータ値のことをいう。

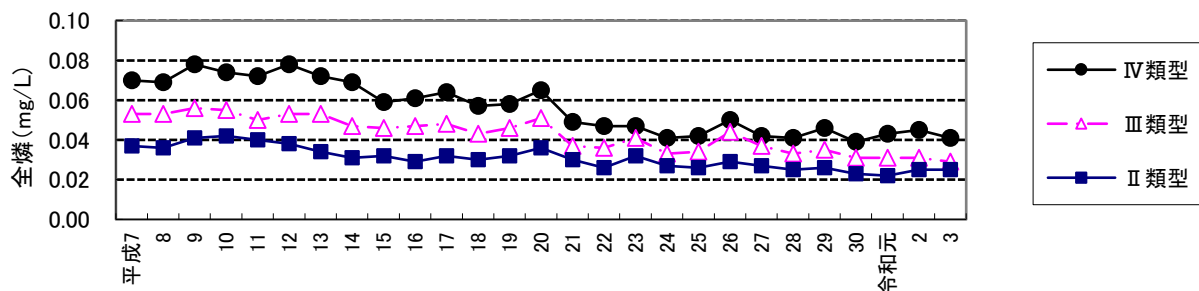
(2) 海域の水質

瀬戸内海において、富栄養化の指標であるリンや窒素については、すべての調査地点で環境基準値を下回っていました。(調査地点は、海域の利用目的の適応性に応じて類型され、それぞれに環境基準が設定されています。)

〈全磷〉

全磷の環境基準値（上限値）・水質目標値（下限値）との比較

項目	年平均値 (mg/L)	類型	環境基準 (mg/L)	水質目標値 (mg/L)
全磷	0.025	II	0.03 以下	0.02 以上
	0.029	III	0.05 以下	
	0.041	IV	0.09 以下	

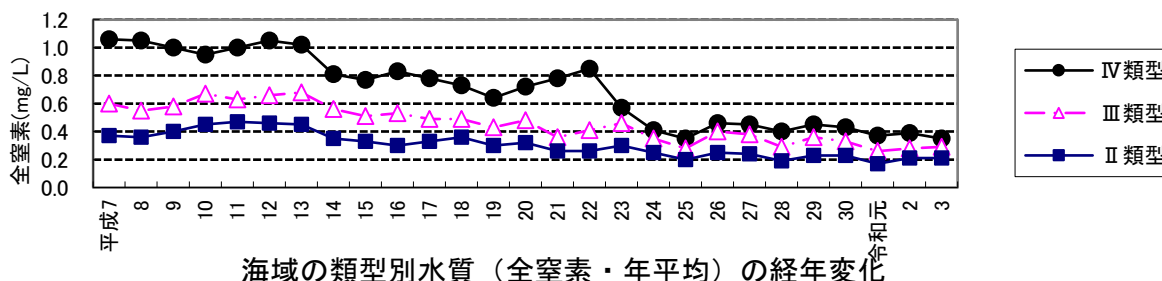


海域の類型別水質(全磷・年平均)の経年変化

〈全窒素〉

全窒素の環境基準値（上限値）・水質目標値（下限値）との比較

項目	年平均値 (mg/L)	類型	環境基準 (mg/L)	水質目標値 (mg/L)
全窒素	0.21	Ⅱ	0.3 以下	0.2 以上
	0.29	Ⅲ	0.6 以下	
	0.36	Ⅳ	1 以下	



3. 自動車騒音

幹線道路 34 路線の沿道 47 地点で測定し、35 地点で昼間及び夜間とも環境基準を達成しました。また、昼間のみ環境基準を達成したのは 3 地点、夜間のみ環境基準を達成したのは 1 地点、昼間及び夜間とも環境基準を達成しなかったのは 8 地点でした。

4. 空間の放射線の状況

全ての調査地点（各区の区役所等の 9 地点）で、東日本大震災発生前の測定結果（0.063～0.143 μ Sv/h）と比較して同程度またはそれ以下の値（0.063～0.084 μ Sv/h）でした。

5. 公害に関する苦情処理の状況

- ・令和 3 年度の公害苦情の受付件数は 270 件でした。
- ・種類別にみると、工事現場の作業音等の騒音が最も多く（42%）、次いで悪臭（25%）、水質汚濁（11%）に係る苦情が多くありました。

6. その他

（1）データ等の詳細は、環境局ホームページに掲載しています。

（2）関連する神戸市 HP のリンク

ア 過去の資料（神戸市の大気質・水質・騒音・公害苦情処理等の状況）

<https://www.city.kobe.lg.jp/a66958/kurashi/recycle/kankyohozen/kohyo.html>

イ 環境情報（環境保全・環境アセスメント）:

<https://www.city.kobe.lg.jp/a66324/kurashi/recycle/kankyohozen/index.html>